

令和3年度 総合戦略に掲げる基本目標及び具体的な施策の目標値実績及び要因分析

資料2

基本目標1: 儲かる地域をつくとともに、安定した雇用を創出する

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
農業総収入額	48.3億円	49.3億円	43.7億円	B	令和3年については、コロナ禍の影響による、大幅な米価の下落が目標値に達しなかった大きな要因と考えられる。【R3目標値の88%】	49.3億円
木材生産量	6,023m ³	6,143m ³	11,469m ³	A	コロナ禍の影響により、世界的に木材需要が増加し、国産材の需要が高まったこと、及び林道の維持管理や計画的な森林の整備を行ったため目標値を上回ったと考えられる。	6,504m ³
町内企業の新規就業者数 (新卒採用)	0	40人	11人	C	企業訪問している30社を調査したところ、コロナ禍の影響による業績悪化により、雇用を見送った企業が多かったことが主な原因であると考えられる。コロナの影響で合同企業説明会が開催できなかったことも要因のひとつに挙げられる。	40人

《具体的な施策の重要業績評価指標 (KPI) 》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(1) 農産物の高付加価値化及び安定した販路の確保						
農産物加工に取り組んでいる農家数	19戸	22戸	22戸	A	年度目標は達成したが、新たに加工に取り組む人が増加したものの、農産物加工をしている者を再調査した結果、廃業した者もあり数値は昨年と比べ減少となった。	25戸
(2) 農業を担う人材の育成						
認定農業者経営体数	259経営体	254経営体	221経営体	B	平成27年には経営所得安定対策の交付要件に、認定農業者であることが加わったことにより認定農業者数が急増していたが、令和2年度から3年度にかけて認定期限を迎え、高齢の認定農業者が再認定を断念したことが目標値に達成しなかった要因と考えられる。【R3目標値の87%達成】	254経営体
(3) 林業の育成に向けた基盤づくり						
林道密度	5.66 m/ha	5.72 m/ha	5.68 m/ha	B	災害発生による工事中止や、入札の不調による林道開設工事の遅延により、新たな林道整備が進まなかったため、令和2年度の実績値より変化がなかった。	5.81m/ha
森林保全を目的とした施業面積	206ha	251ha	210ha	B	施業面積は昨年度の数値を上回ったが、年度目標は達成しなかった。目標値を下回った主な要因は、民間林業事業者の本町における施業面積の減少であると考えられる。	271ha

事業評価：
A:非常に効果的であった(達成率 \geq 100%) B:相当程度効果があった(70% \leq 達成率 $<$ 100%) C:効果があった(0% \leq 達成率 $<$ 70%) D:効果がなかった(著しく悪化) - :効果検証ができないもの

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(4) 町内事業所の稼ぐ力向上及び新規創業への支援						
創業支援事業に係る受講者数の件数	56人	56人	57人	A	創業セミナーやあいづしんくみ「創業塾」の受講者、町、商工会への相談者等の増加によって目標値を上回った。相談数は増加傾向にあるが、国をはじめ、県や町のコロナウイルス感染症に対する支援制度の充実により、創業への機運が回復していることが原因と思われる。	56件
(5) 若年世代の就職支援						
合同企業説明会への参加者数	0	50人	0人	D	令和3年2月に開催予定であった合同企業説明会が、コロナ禍の影響により、中止になったためである。代替策として、町内企業の会社案内及びパンフレットを配付した。	50人

基本目標2: 本町と多様に関わる人を増やし、新しい人の流れをつくる

《基本目標に対する数値目標》

KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
人口における社会動態(転入-転出)	△58人	△42人	△103人	D	移住促進事業や住宅取得支援事業をはじめとする人口減少抑制への取り組みを実施したが、令和3年度における転出者を年代別で見ると、15歳から29歳までの割合が48%を占めている。就学や就職のために若い世代が多く転出し、その後の転入減は希望する職場(職種)が少ないことが実績値が下回った要因として考えられる。	△33人
関係人口の創出に取り組む企業・団体・個人の数	0	2件	4件	A	本町と継続的な関わりをもつ関係人口の増加を目指し、関係人口の創出に取り組む法人1社が新たに加わり、計4社となった。	4件

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(1) 観光を入口とした交流人口及び関係人口の創出						
町内宿泊施設の宿泊者数(年間)	16,155人	16,400人	6,712人	C	コロナ禍の影響により、観光の入込数が減少していたが、移動制限が解除となり、会津近郊を中心に人流が回復したこと、県民割等の利用者増により昨年度よりは増加したが、目標値には達しなかった。【R3目標値の40%達成】	16,550人
観光施設の入込客数	57,000人	60,000人	23,000人	C	コロナ禍の影響により、観光入込数の減少が続いているが、移動制限が解除となり、会津近郊を中心に人流が一部回復した。しかし、観光意欲の高まりが見られなかったため、入れ込み客数は回復せず、減少したものと考えられる。【R3目標値の38%達成】	63,000人
レンタサイクル貸出件数	76件	73件	40件	D	コロナ禍の影響により、観光入込数が減少しており、貸出数は伸びていない。しかし、移動制限が解除となり、会津近郊を中心に人流が一部回復したため、ある程度の利用があったと思われる。	90件
(2) 空き家の利活用による移住・定住の促進						
空き家バンク等による空き家の利活用件数(累計)	16件	36件	46件	A	令和3年度は、7件(売買4件、賃貸3件)が成約となり、移住定住の促進につながった。これは、移住・定住者への住宅取得に対する補助制度の利用と移住定住支援コーディネーターの支援活動が充実したことが要因として考えられる。	51件

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(3) 移住・定住の促進						
定住した地域おこし協力隊員の数(累計)	0	6人	6人	A	令和3年度は任期満了となる隊員はいなかったが、累計は年度目標に達した。なお、昨年度任期満了となり転出した隊員1名が起業支援補助金を活用して本町で起業し、引き続き関係人口として活動している。	7人
移住・定住相談窓口を通じた移住・定住世帯数(累計)	26世帯	48世帯	110世帯	A	移住定住支援業務を民間委託し専任のコーディネーターを配置したことにより、きめ細やかな相談体制の充実に努めることができたほか、移住定住者に住宅取得費に対する補助金を交付したことが要因と考えられる。	61世帯
住宅新築・増改築件数	121件	68件	36件	C	コロナ禍の影響により、景気低迷が継続しているため、住宅新築、増改築の件数が少なかったことが要因と考えられる。【R3目標値の53%達成】	68件
(4) 小中学生及び高校生のまちづくりへの参画						
今住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合(小学6年生)	81.0%	85.5%	76.3%	B	コロナ禍の影響により、児童の地域行事参加が制限されたため、数値が減少したと考えられる。【R3目標値の89%達成】	91.5%
今住んでいる地域の行事に参加している子どもの割合(中学3年生)	61.8%	74.5%	75.9%	A	コロナ禍の影響により行事参加が制限されたが、感染予防対策をし可能な限り地域行事への参画を促してきた成果と考えられる。	76.0%
高校生が参画する地域課題解決の取組件数	0	1件	2件	A	大沼高校(現 会津西陵高校)1学年、2学年で行っている地域課題探究学習において、職員による町の概要と重点的な取り組み事項を説明し、高校生自らが町の課題を見つけ出せるよう支援した。また、課題に対し解決するためのアイデアを考案し実施に向けた計画について職員がアドバイスを行うなどして支援した結果、令和4年4月からの健民パスポート事業を活用した事業や、只見線全線運転再開に向けた事業について計画ができた。	1件
(5) 大学等との学官連携の推進						
町と大学等が共同で取り組む調査研究事業件数(累計)	3件	7件	10件	A	・会津大学と連携し地域課題に対するソフトウェアの開発を通し、学生のソフトウェア工学に対する理解を深めることを目的として、公共交通利用を促進する「会津美里町乗り換えシステム」及び町の魅力を再発見できる「会津美里町の歴史文化を学習体験できるアプリ」の開発に取り組み、学生成果報告会を開催し、創造力と実践力を身に付けた学生の育成に寄与した。 ・東北芸術工科大学と連携し、テレワークとサテライトオフィスに関する調査研究を行い本町における現状把握と課題を整理し取り組むべき事業の提案を受け令和4年度の事業実施に向け検討を行った。	10件
(6) ふるさと納税を通じた資金調達及び関係人口の創出						
3年連続または返品なしで本町にふるさと納税を行った寄付者の数	116人	106人	111人	A	前年と比較してふるさと納税全体の寄附者及び、関係人口による寄附者ともに増加した。寄附申込みの際のアンケートにより本町に関心を持っている寄附者の割合が増加したこと、人気返礼品への継続した寄附者が増えたことが要因と思われる。【R3目標値の105%達成】	106人

基本目標3:結婚・出産・子育ての希望をかなえる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
年間出生者数	113人	100人	94人	B	移住・定住の各種事業や結婚・子育てコンシェルジュ事業を展開し、昨年度実績値より18人増加となったが、20歳から39歳までの転出超過が△176人となっている。これは、子育て世代の減少による影響と考えられるが、減少幅を一定程度縮減できたと考えられる。 【R3目標値の94%達成】	100人
子育てしやすい環境(育児や保育など)のまちだと思ふ町民の割合	76.5%	79.7%	70.8%	B	子どもたちが将来親となるために必要な教育や情報、犯罪被害や交通安全など、子供たちへの安全確保が求められているため目標達成には至っていないが、認定こども園等における保育サービスの拡充を求める回答は少ないため、これまでの取り組みがある程度評価されていると考えられる。 【R3目標値の88%達成】	82.0%

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(1) 出会いと結婚の支援						
婚活事業によるカップル成立数	0	2件	1件	C	コロナ禍の影響により活動が制限されたが、オンラインでの婚活やスポーツを通しての交流を図る夜活を新たに開催する等、企画内容が異なる婚活イベントを合計8回実施したことにより3組のカップルが成立し、その後1組の正式交際につなげることができた。	3件
婚活事業又は結婚相談員による結婚成立件数(累計)	0	2件	1件	C	各種婚活イベントや、縁結びサポーターによるお引き合わせを実施する等の結婚支援活動を実施したが、令和3年度における結婚成立は無かった。	5件
(2) 妊娠から出産・子育てまでの切れ目のない支援						
子育て支援教室(ミルク教室)に参加した子どもの数	258人	242人	119人	C	コロナ禍の影響により、参加者数を制限した(子どもの感染が増加した月は中止)ために、参加者が大幅に減少した。また、年間出生数も影響していると思われる。 【R3目標値の49%達成】	242人
こども園・児童クラブの待機児童の数	3人	0人	0人	A	多様化する保護者の就労形態やニーズに応えるため、保育士等の適正配置に務めたことにより目標を達成した。	0人
(3) 安心して出産・子育てしながら働くことができる環境づくり						
町内の主な企業の育児休業取得率(男性)	4.1%	6.0%	9.7%	A	育児休業制度を設けている町内事業所は54事業所あり、男性が育児休業を取得する企業は6事業所で8名であった。令和2年度と比較すると3.0ポイント増となり、目標値より3.7ポイント高い結果となった。一方で育児休業の制度を設けていない事業所もあり、いまだ育児休業取得への理解が浸透していないと考えられる。	6.0%
町審議会・委員会における女性の割合	23.4%	25.7%	26.8%	A	町審議会・委員会における女性の割合は26.8%で目標値よりも1.3ポイント低い結果となった。審議会のうち女性委員は76人から67人に減少し、委員会では4人から5人に増加したが、割合は前年度を下回った。	28.1%

基本目標4:質の高い安心して暮らすことができる魅力的な地域をつくる

《基本目標に対する数値目標》

項目	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
防災・消防体制が充実していると感じる町民の割合	67.0%	72.1%	62.9%	B	町民の防災意識の高揚を図るため、出前講座などの啓発活動や防災訓練を行ったが、全国で多くの災害が発生しており、住民の災害に対する意識が高まっており、相対的に基準値と比べ実績値が低くなったと考えられる。 【R3目標値の87%達成】	77.4%
地域の活動が活発化し、魅力ある地域がつくられていると感じる町民の割合	49.8%	50.0%	45.0%	B	コロナ禍の影響により、地域活動に参加する機会の減少や、少子高齢化、人口減少により地域活力の低下が懸念されており、令和2年度と比較し町民アンケートの割合が0.7ポイント減少した。また、地域の実情に応じた取り組みに対する支援を実施し地域活動の活性化に寄与した。 【R3目標値の90%達成】	52.0%

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(1)遊休資産の地域資源化						
空き家バンク等による空き家の利活用件数(累計)	16件	36件	46件	A	※再掲	51件
(2)持続可能な公共交通体系の構築						
美里あいあいタクシーの利用者数	25,922人	27,550人	22,235人	B	令和3年度の実績は令和2年度と比較すると898人減となり、目標値よりも5,615人少ない結果となった。コロナ禍の影響によって外出機会が減ったことにより利用者数が減少したと考えられる。 【R3目標値の90%達成】	27,850人
(3)町民による主体的な地域活動の構築						
集落支援員の支援を受けて話し合いをしている地区の数	5地区	7地区	12地区	A	地区住民が集まり活動できる「集いの場」の開催について集落支援員が12地区に対して提案し、6地区において開催することができた。その他の地区においても随時話し合いを継続して行った。ほかに、自主防災機能の組織化や農業後継者問題等についても話し合いを行った。	10地区
図書館での図書貸出人の人口千人当たりの人数	0	515人	530人	A	コロナ禍の影響により、一時的に開館時間の短縮や貸出冊数増・貸出日数を延長(14日→1ヶ月)するなど、来館回数を増やすなどの対策を実施したが前年度より減少した。	545人
地域再発見事業や出前講座等を活用した郷土学習に参加した人数	12人	55人	39人	B	コロナ禍の影響により、実施地区は3地区と少なかったが、1回あたり10名程度の参加者であった。各地区において地元の歴史を周知し、文化財保存活用の重要性について意識高揚を図ることができた。	70人

《具体的な施策の重要業績評価指標(KPI)》

具体的な施策						
KPI(重要業績評価指標)	基準値(H30)	R3目標値	R3実績値	評価(決定)	R3年実績値の要因分析	目標値(R6)
(4)健康で快適な生活づくりの推進						
実際にスポーツを行っている人の割合	35.4%	35.5%	45.0%	A	コロナ禍の影響により、参加者は減少傾向であるが、感染症対策を講じながら、町民がスポーツ活動に親しめる機会の創出に努めた。その結果、目標値を上回ったと考えられる。	36.1%
集いの場の設置数	28箇所	38箇所	45箇所	A	コロナ禍の影響により、休止している集いの場はあるが、6つのメニューで介護予防事業を行った。また、集落支援員と連携し、集いの場が立ち上がりそうな地区には生活支援コーディネーターがサポートを行い、新規に6箇所を設立することができた。	44箇所
(5)地域における防災力の強化						
消防団員数	825人	770人	752人	B	人口減少や高齢化により団員数は減少しているが、消防団員OBを機能別消防団員として再入団する取り組みを行っており、減少数を最小限に抑えた。しかし、目標値を維持できなかった。 【R3目標値の97%達成】	770人
自主防災組織数	14箇所	22箇所	16箇所	B	組織の設立支援補助金の周知や出前講座を開催しており、自治区長なども組織化の必要性に理解を示しているが、コロナ禍の影響により、設立支援の活動が思うようにできず、新たな組織設立に至らなかった。	30箇所